

令和7年度 しおなみ苑・みなと 地域連携推進会議議事録

1. 日時 令和8年1月21日(水) 13:30~15:10

2. 場所 しおなみ苑 会議室

3. 出席者

しおなみ苑利用者代表

みなと利用者代表

しおなみ苑保護者代表

八百津町民生・児童委員 副会長

八百津町社会福祉協議会 会長

八百津町役場健康福祉課福祉係 主事

しおなみ苑相談支援センター 主任相談支援専門員

しおなみ苑施設長・みなと管理者

しおなみ苑サービス管理責任者

みなとサービス管理責任者 (欠席)

4. 会議次第

開会

施設長挨拶

出席者の紹介 (施設長)

しおなみ苑見学

議題

地域連携推進会議の概要 (施設長)

しおなみ苑の紹介 (しおなみ苑サービス管理責任者)

みなとの紹介 (施設長)

意見交換

みなと見学

5. 意見交換の記録

しおなみ苑利用者

・現在の生活で特に困っていることはなく、作業に参加することを楽しいと感じている。

みなと利用者

- ・みなとの女性利用者が私1人でだれか入居してくれるとよい。
- ・ワカムラの内職作業や着物の解体、段ボールの内職などを行っている。日中にやることがあることが大切であり、作業は生きがいになっている。
- ・職員は親切で優しく、安心して生活できている。食事も美味しく、現在の生活に満足している。

保護者

- ・長年、お世話になっており生活に慣れたようです。入所したところは不満もあった様子ですが、現在は家でもすごく穏やかで感謝しています。仲の良い利用者さんもあり家へ帰りたいたとも言わないし、しおなみ苑へ帰るときも早くから準備をしています。職員さんも優しくありがたいです。

社会福祉協議会会長

- ・日中活動について、全員が作業できるわけではないため、体を動かす活動の機会があってもよいのではないか。
- ・近隣施設、グランドゴルフ・マレットゴルフを活用し、軽運動を検討してはどうか。
- ・定員に余裕があるため、入所希望者がいれば積極的に受け入れを検討してほしい。
- ・地域との交流機会が少ないため、ボランティアや地域住民との接点を増やすことが望ましい。

相談員

- ・昨年の秋のふれあい祭りから少しずつ開放していこうということで、八百津町親子教室の方と職員さんを含めて10名程招待した。
- ・八百津町の方で、保護者が入院された利用者を現在1名、しおなみ苑の短期入所で利用してもらっている。
- ・しおなみ苑の利用者をみると、女性の利用者は22名と少ないが、高齢化・重度化が進んでおり、現状では精一杯である。
- ・地域の保護者向けに、学校卒業後の進路や障害福祉サービスについて説明する場を設けている。
- ・8050問題の影響により、家庭での支援が困難となり、緊急的に入所につながるケースが増えている。
- ・国の方針として地域移行が進められているため、比較的自立度の高い方は入所につながりにくくなっている。

施設長

- ・コロナ禍以降、外出や地域交流が大きく制限され、現在も以前の水準には戻っていない。
- ・利用者の高齢化や、引率に必要な職員配置の問題により、外出機会の確保が難しい状況がある。一方で、「可能な限り外へ」という支援の方向性は維持しており、少しずつ外出や交流の機会を増やしている。
- ・秋のふれあい祭りでは地域住民に来苑してもらい、施設を知ってもらう機会を設けた。

- ・人手不足が大きな課題であり、安全面を考慮しながら、無理のない範囲で地域交流を進めていきたい。

民生・児童委員

- ・ふれあい祭りでは、日赤さんを通じて八百津全地区からボランティアに来ていただいている。
- ・近隣のマレットゴルフ場については、しおなみ苑利用者は無料で使用できます道具についても、必要に応じて自由に使用できる体制を整えている。ただし、職員の引率が必要であることや、大人数での利用が難しい点については理解が必要である。
- ・利用者の高齢化により、以前のような活発な屋外活動は難しくなっているが、できる範囲で外に出る機会は大切である。
- ・潮南地区においても高齢化が進んでおり、しおなみ苑へ慰問に来てほしいといわれても難しい。昔は、保育園や小学校と交流活動を行っていたが、現在は、保育園・小学校・中学校も閉校になっており難しいのではなか。

社協会長

- ・コロナが終わっても、インフルエンザが流行することもあり社会情勢を見極めながら行う必要がある。

サビ管

- ・女性の利用者さんからは、買い物の希望が多く小グループでの外出も増やしています。

社協会長

- ・人数が少なければ、コミュニティーバスを利用してもよいのでは。

健康福祉課福祉係

- ・利用者のサービスを担当しており、会議の際に65歳を超えると介護保険サービスと言われるが、長い期間しおなみ苑で生活され、支援の方法を理解しており65歳で移行するのは難しいことは理解できます。サービスを移行するタイミングは何かありますか。

相談員

- ・65歳以上の利用者については介護保険への移行が制度上求められるが、障害福祉サービスと同等の支援が受けられる施設は少なく、実際の移行は困難である。

サビ管

- ・しおなみ苑の利用者において、入院され医療行為が必要になった際に市町村と連携して介護保険に移行しています。動けるうちは、しおなみ苑で生活したいと言われる方が多いです。

施設長

- ・意見交換では、外出や地域交流の充実と利用者の高齢化・人手不足という現実的な課題が共有できました。今後も地域連携推進会議を開催してまいりますので、ご協力をお願いします。